

## 第 88 回 東葛しぜん観察会

### 春を待つ元気な生きものたち

勝股政雄（船橋市）

日 時：2013 年 2 月 17 日（日）9：30～12：00 天気：晴れ

場 所：大町自然観察園（市川市）

参加者：一般 18 名（内 子ども 4 名）、指導員 24 名

担当指導員：岩根悦子、高野満里子、勝股政雄

大町自然観察園は、市川市の最奥部にあり、台地に深く入り込んだ谷津と周りの斜面林とからなっている。谷津に湿生植物が豊富で昆虫や野鳥も数多く生息していて、豊かな自然を感じることができる観察園である。厳しい寒さの中でも植物や動物に出会うことにより、「へーっ!」「すごい!」という感動を味わってもらおうと準備し、この日を迎えた。参加者の 18 人を 3 班編成とし、そこに指導員が 2～3 人つき、これ以外の指導員も一つの班とした。

台地から下って谷津に下りたすぐの所に、地下水がこんこんと湧いている。まずは、ここで湧水に手を入れ「温かい!」と、皆びっくり。この湧水は、台地上の梨畑に降った雨が時間をかけてしみだしていること、そして、ここの谷津が豊富な地下水によって湿潤な環境が保たれていることを感じ取った。

近くに池があり、カワセミが私たちを出迎えてくれた。水辺の宝石とはよく言ったものだと、その美しさに感動。数多くのカメラマンの邪魔にならぬよう気をつけ、少し行くとトクサが目についた。枝も無い、葉もない（ように見える）植物の珍しさと昔の人がそのざらざらの茎を上手に利用したこと、触ってみて納得。

今度は、湿地にみずみずしい若葉がびっしりと茂っていた。「おいしそう」という感想を取り上げ、これが現在も食用にされているクレソンとセリと知る。音を立てないように歩いていたら、かわいい鳴き声とともに、アオジが現れた。皆、その黄緑色の体の色に感動し、その名のいわれも納得した。周りを見ながら歩いていくと、シジュウカラが集団でやってきた。忙しく餌を探している。「あっ、いた。」という声に振り向くと、ルリビタキが、すぐ 3m くらい先で、尾を振っている。なんとかわいい目をしているのだろう。この鳥、あまり人を恐れない。すっかり人気者になってしまった。この日に会えた鳥は、このほかにシロハラ、マガモ、カルガモ、キクイタダキ、ウグイス、ヤマガラなど。全員すっかり鳥に魅せられた。

植物では、コブシ、ニワトコの芽が大きく膨らみ、そっと触てみながら、春近しを感じることができた。そして、湿地特有のハンノキがいち早く雄花を開き、盛んに花粉を出している。雌花が遅れて熟し、自家受粉を避けていることを知り、この木のたくましさに触れることができた。最終地点で、参加者から、春を待っている元気な生き物たちと自分との距離が、ぐんと近くなったという感想を聞くことができ、一緒に歩いた私たちの顔も、自然にほころんだ。



コブシの柔らかく温かそうな花芽を観察